

〈NGO・外務省定期協議会 議題案／質問状記入シート〉

コソボやイラクなどの紛争地における人道支援など、NGOとして培ったノウハウや教訓などがあれば教えていただきたい。

⇒イラクにおける教訓

●イラク戦争においては、長期化が予測できなかった。

なぜここまで治安が悪化してしまったのか、占領統治のあり方そのものが問われるにもかかわらず、UNの一時的な撤退などもあり、NGOの意見などがほとんど反映されていない。

NGOも含め、イラクの安定化に向けた取り組みがどこまで真剣だったか。

●紛争地での危機管理の確立

政府や企業と異なり、セキュリティガードなどは雇えないNGOがいかに危機管理を行うか、2004年の邦人人質事件以降初めて真剣にNGO間で議論され、JANICは、5年間の安全管理危機管理研修を実施。

●遠隔操作、

イラク国内に入れない状態から、ローカルスタッフを活用した遠隔操作が確立。

●難民支援

イラク人が一名、日本で難民申請。サマーワやバグダッドで日本人ジャーナリストの通訳や、自衛隊の取材、その功績で自衛隊から感謝状をもらうなどした。そのためのちに、武装勢力から脅迫状を送られた。日本での審査は難民認定されず。アメリカや、欧州は、通訳に受持することで、身に危険が及んだ場合は優先的に難民として受け入れられていることなども参考にすべき。

イラク国内では、命の危険にさらされている優秀な人材を日本国内での長期にわたる研修へ招聘することで、庇護するのと同じ効果を持たず取り組みを実施。

●難民

シリアやヨルダンに大量の難民が発生した。

しかし難民キャンプがあるわけではなく、いわゆる都市難民で、ホスト国のコミュニティと一体になった支援が必要だった。シリアが100万人を超える難民を受け入れたが、のちのシリアの不安定化につながらなかったのかどうかなど。

シリア難民などに対する人道支援の現状報告、各国NGOや国際機関との活動比較や連携、我が国NGOの独自性などについて、特筆すべきことなどがあれば承知したい。

2011 年は、多くのNGOが東日本大震災後の東北支援を実施しており、また日本国内も海外支援への理解は消極的で資金も集まらない状況でシリア支援までは手が届かない状況。

2012年に入ってからいくつかのNGOが活動を開始。

JIM-NETは、4月より調査活動を始めると同時に、募金も呼びかけ、イラクとヨルダンといった活動地での支援を開始。

シリア協力隊OBらが中心となりSADAKAが立ち上がる。ヨルダンの都市難民らの支援。

いずれも、募金の金額に合わせての小規模なものをスポット的につなげる。

国内ではむしろ中東の専門家らを招きアドボカシー的な活動で協働している。

6月、UNHCRとNGOで作る連絡会議J-FUNでもシリア難民支援の話題が出て、ジュネーブとつないでスカイプ会議をやるも、NGOの動きは鈍かった。8月には、イラクやアフガニスタンなどの戦場取材してきた山本美香（ジャパンプレス）がアレッポで射殺されるという事件が起き、シリア国内での活動の可能性は絶望的となった。

11月には、ジャパンプラットフォームが出動を決定。いくつかのNGOが、周辺諸国で難民支援を開始

●JIM-NETの実績

【シリアに関する活動を開始時期】

4月から調査開始

【活動場所】

ヨルダン:アンマンの都市難民

イラク: アンバール州およびクルド地域

【活動内容】

JIM-NETでは、財源が限られており、「できること」からやっといこうと医療支援を中心に行っています。主にヨルダンの都市難民と、イラクに入国したシリア難民の病院への搬送や、治療中の生活費などの一部を支援。また、日本国内でシリアの情勢などを発信するため、写真展やシンポジウムなどを行っています。

1) 医療支援

○ヨルダンのシリア都市難民のためにできた専用病院（アーキラ病院）に720,000円寄付（医薬品、医療消耗品）

○カーイム、アルワリード等の難民キャンプからラマディやバグッドに移送されてきた患者の医薬品や生活費の支援

10人分 310,400円

○ドミーズキャンプの医薬品支援（北イラク）への薬支援 3,200円

2) 都市難民の生活支援

ヨルダンのアンマンの都市難民にユニクロの古着や、食糧パッケージ等の配布

○ヨルダンの都市難民15家族に食糧パッケージ 27,000円

○ヨルダンの都市難民にユニクロの古着100着送料 52,000円

○ヨルダンでCIDS主催の支援コンサートへ寄付 4,520円

○イラク、アルワリード難民キャンプの患者支援

○ヨルダン都市難民15家族へ羊一頭 27118円

3) 広報活動

写真展 8月29, 30 横浜赤レンガ倉庫

報告会 6月23日

シンポジウム 10月8日

ジャパンプラットフォームの活動

JPFは、2億円の予算をつけて11月より出動。

NGOの活動は以下の通り。

●公益社団法人日本国際民間協力会NICCO

助成金額：33,106,583円

支援内容：越冬支援物資配布

支援地域：ヨルダン国ザアタリキャンプ、ザルカ

関連記事：シリア内戦の被災者を対象とした緊急支援を隣国のヨルダンで開始します。

●特定非営利活動法人パレスチナ子どものキャンペーン

助成金額：20,803,000円

支援内容：生活物資配布、子どもの居場所作り、母親向けワークショップ

支援地域：ヨルダン国（北部、およびイーストアンマン地区（避難民キャンプの内外））

●特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

助成金額：44,206,749円

支援内容：生活物資配布

支援地域：イラク国ドミズキャンプ

●公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

助成金額：19,842,075円

支援内容：シリア難民家族と幼稚園に対する越冬支援

支援地域：レバノン国ベカー県

議題に関わる論点（定期協議会の場で主張したいことや、外務省に確認しておきたいと現段階で考
える点）：

シリア紛争に関して、難民支援も重要であるが、紛争を停止させるために、政府、NGO が一体となって、尽力すべきである。

わが国は、長年シリアへの ODA 供与や技術協力を行ってきた。したがってアサド政権とのパイプも深いと考えられる。和平交渉の場づくりに関して、そういったパイプを利用すべき。

反体制派への武器供与といった支援の仕方では、犠牲者が増えるばかりである。